

板橋区環境教育推進プランの進捗状況について

本プランは、持続可能な社会の構築に向けて、板橋区における環境教育の基本的な方針を示すとともに、区民、区民団体、事業者、学校等、区が展開すべき環境教育の推進に必要な事項を定めることにより、各主体それぞれの環境教育及び各主体の連携による環境教育の効率的・効果的な推進を目的とし、平成 19 年 2 月に策定された。

本プランの進行管理は、P D C A サイクルを用い、指標による目標の達成状況により点検・評価することとし、環境教育が効果的に実施されているかどうかをはかるものさしとして、15 の成果指標を設定し、平成 27 年度までの数値目標を立てている。

平成 22 年度末における成果指標の達成状況について、以下のとおり報告する。

1. 成果指標及び目標に対する達成状況

成果指標		平成 21 年度	平成 22 年度	目標 (平成 27 年度)	達成率
①	エコポリスセンターホームページのアクセス件数	37,427 件	32,168 件	73,000 件	44.1%
②	環境教育プログラム利用学校数	51 校	52 校	全校(77 校)	67.5%
③	プログラムバンクの登録人数	72 人	43 人	300 人	14.3%
④	プログラムバンクの登録プログラム数	126 件	158 件	200 件	79.0%
⑤	いたばしエコ・ショップの店舗数	103 店舗	118 店舗	150 店舗	78.7%
⑥	環境保全キャンペーン参加者数	21,872 人	30,308 人	30,000 人	101%
⑦	エコチェックシートの得点 (エコチェックシート参加者数)	56.9 点 (2,354 人)	54.4 点 (3,857 人)	満点(70 点)	77.7%
⑧	小・中学校における環境学習の時間数	4,077 時間 (789 件)	4,294 時間 (834 件)	4,000 時間	107%
⑨	環境講座等参加者数 (内エコポリスセンター環境講座等参加者数)	22,665 人 (12,031 人)	21,933 人 (11,709 人)	30,000 人 (10,000 人)	73.0% (134%)
⑩	環境イベント等参加者数 (内エコポリスセンター環境イベント等参加者数)	56,060 人 (49,222 人)	58,995 人 (55,561 人)	100,000 人 (70,000 人)	59.0% (79.4%)
⑪	エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数	622 人	613 人	1,000 人	61.3%
⑫	エコポリスセンター登録環境団体数	16 団体	22 団体 (こどもエコクラブ 7 団体含む)	30 団体	73.3%
⑬	こどもエコクラブ登録団体数	8 団体	—	⑫に統合	—
⑭	集団回収登録団体数	865 団体	882 団体	900 団体	98.0%
⑮	環境学習講師派遣実施件数・派遣人数	434 人 (延 103 校)	351 人 (延 107 校)	500 人	70.2%

2. 達成状況の結果について

成果指標のうち、⑥環境保全キャンペーン参加者数ならびに⑧小・中学校における環境学習の件数は目標値を超える結果となった。また、前年度からポイントの下がったものが6項目（①、③、⑦、⑨、⑪、⑮）、増加したものが8項目（②、④、⑤、⑥、⑧、⑩、⑫、⑭）だった。

今回の進捗状況の結果を踏まえ、特に前年度からポイントの下がった指標の目標達成に対する課題と今後の対策を検討した。

①エコポリスセンターホームページアクセス件数

【現状・課題】

- ・エコポリスセンターホームページの閲覧件数をカウントし、センターへの興味・関心の度合いをはかるもの。
- ・一日平均アクセス件数は60件前後。多い月でも一日平均120件程度。
- ・目標値は一日平均200件。
- ・更新頻度の低さや継続的な情報の少なさ、講座や企画イベントの魅力不足などが主な要因。

【今後の対策】

平成24年度以降はエコポリスセンターの指定管理者制度導入に伴い、ホームページの管理も民間事業者が行う。区ができなかった手法・媒体（ブログやツイッター等）を使った情報発信や、区民が欲しい情報を相互に発信できる掲示板の設置など民間事業者のノウハウを生かしたものになり、区民の関心度も高まることが期待できる。ただし、指標目標値の見直しについては今後も検討していく。

③プログラムバンク登録人数

【現状・課題】

- ・環境に関する講座やイベントなどに講師やボランティアスタッフとして協力できる人材を登録する制度。エコポリスセンターが管理し、各方面からの派遣依頼に対し紹介するもの。
- ・主な登録者は、環境リーダー養成講座の受講生やエコポリスセンターの事業に講師またはボランティアとして参加経験のある方。
- ・主な減少理由は、高齢化や転出によるもの。
- ・登録者数増加への課題は、登録制度の周知を活発にしていこうことや、養成講座の内容（レベル）をその後の活動につなげやすいものに変えていくこと。

【今後の対策】

養成講座等の事業内容の改善、ボランティアが継続して関わっていけるような仕組みづくりを検討する。さらに、平成24年度以降は、区と区民・環境活動団体・事業者等の協働組織「エコライフネット」の創設を始め、その構成メンバーとなる「エコライフサポーター」をプログラムバンク登録者と同じ位置づけとする予定。ただし、指標目標値の見直しについては今後も検討していく。

⑦エコチェックシート得点

【現状・課題】

- ・区民の環境への意識の度合いをはかるために、生活の中で取り組む環境活動の実施状況をアンケート形式で答えてもらうもの。14項目で構成し、70点満点。
- ・区立小学校5年生が取り組んでいる『エコチャレンジ』に合わせた配布、家政大学との協定事業において環境教育学科1年生全員に配布、区民まつりや環境なんでも見本市等のイベントでの配布により参加者数は増加。
- ・小学生や大学生などの若い世代に配布したため、平均点が下がったと推定。
- ・エコチェックシートの14項目は生活習慣に密接しているため、満点に近づけるためには区民の環境意識を高い水準で保つことが必要。

【今後の対策】

区の環境イベントや講座、啓発活動を14項目に焦点を当てた内容することや、14項目の行動を習慣化できるような継続的なサポートを事業の中に組み込むことなどを検討する。

⑨環境講座等参加者数

【現状・課題】

- ・エコポリスセンターをはじめ、環境保全課や清掃リサイクル課、みどりと公園課など、環境に関する講座の参加者の増加を図るもの。
- ・800人弱の減少、エコポリスセンター参加者数は300人余り減少。
- ・主な減少要因は、清掃リサイクル課と清掃事務所が行っている出前講座の減少。エコポリスセンターのヤゴ救出作戦の減少（申込の日程が重複し実施できず）など。
- ・増加の要因は、リサイクル推進員との協働によるごみ減量・リサイクル研修、緑のカーテン育成講習会、区民団体によるリサイクルワークショップなど。
- ・大規模集客型の講座は参加者数が伸び悩み、小規模出前型の講座のニーズが高まる傾向。

【今後の対策】

出前講座のテーマを幅広く対応できるよう、③のプログラムバンク登録人数の増加と並行して、講師として活躍できる人材育成を目指す。また、地区環境行動委員会など各種団体へ環境講座の実施増加を促す。

⑩エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数

【現状・課題】

- ・エコポリスセンターが行う様々な事業にボランティアを導入し、区民との協働型の事業を展開するもの。
- ・ボランティアスタッフが導入可能な事業には積極的に参加を依頼。
- ・減少の要因は、⑨の環境学習講座等参加者数でも挙げた「ヤゴ救出作戦」の減少（39人減）。
- ・エコライフフェア（延10人増）やグローブクラブ（延20人増）では増加。
- ・平日に活動可能な人材が不足。

【今後の対策】

目標達成のために、今後はボランティアが継続して関わっていけるような事業展開や、環境学習ボランティアに興味はあっても活動まで踏み出せない人材に向けた、活動の場や情報の提供を進める。

⑪環境学習講師派遣実施件数・派遣人数

【現状・課題】

- ・エコポリスセンターに講師派遣依頼のあった事業について、職員又はボランティア等の講師を派遣するもの。
- ・小中学校からの依頼に加え、22年度は幼稚園や保育園からの依頼も増加。
- ・幼稚園・保育園への1件当たりの派遣人数は、小中学校への派遣人数より少ない。
- ・ボランティアの人材不足（人数と各プログラムに対応できる技量）と高齢化。

【今後の対策】

③のプログラムバンク登録人数と並行して、新たな講師の人材発掘を進めていく。ボランティア等の技量を高めるための講座や研修会を実施する。また、環境学習講師の存在を広く周知し、小中学校や幼稚園・保育園以外の環境学習講座への派遣につなげていく。